

「カナリア諸島と地中海ハイライトクルーズ 14 日間の旅行」記

26 期生・岡田美乃利

2015 年 2 月 7 日～21 日予定の阪急トラピックス主催の標記旅行に妻と出かけました。

関空から空路イスタンブールへ、乗り継いでローマへ。ローマ着後、客船MS Cファンタジア（13 万 8 千トン、乗客 3,502 人、乗員 1,388 人・計 4,890 人・内医療チーム約 250 人）で一つの町が移動している旅行だと思いました。ローマから地中海沿岸を周りローマへ帰る 14 日間のクルーズ旅行です。

何が先進国なのか考えさせられた

トラピックス大阪からの乗客は 29 人、日本人は 250 人で 99%が年金生活者です。

乗客で一番多い参加者の国はドイツで約 1,500 人でした。

乗客の内訳で外国は赤ちゃんや学童などの家族連れが沢山いました。また、若いカップルも多数いました。それに比べて日本は年金生活者がほとんどで若い人は全くいません。

訪問したイタリア、スペイン、ポルトガル、モロッコは医療費や教育費はほとんどが無料の国。国民に負担を求める国と、国民が生活を楽しむ国、何が先進国なのかと考えさせられました。

クルーズの旅

船は 18 ノット（33km/h）で、波も静かでゆったりとした航行です。

船で移動するため、ホテルでの宿泊は一切ありません。

海外旅行は今回で 10 回目ですが、何時も思うのは夜、遅くホテルに着いて「スーツケースは翌朝 6 時まで廊下に出して下さい」と言われるのには何時も閉口しています。着替えをするにはスーツケースの中身を出さなければならず、それをまた、スーツケースに仕舞う。睡眠時間が少なくなり、疲労だけが残る旅行は本当に大変。クルーズ旅行は本当にゆったりし、気が休まりました。

部屋の広さはビジネスホテルとほとんど変わりませんが、違うのはバスタブが無く、シャワーのみだということです。しかも部屋では湯沸しポットやアイロン使用は全面禁止です。しかし、電圧は 100V でも OK には助かりました。また、部屋からはベランダに出られて景色を眺めることができ良かったです。

しかしインターネットは船上にいるときは使用不可、日本語の新聞もなく日本の情勢が全くわからないことが辛かったですね。

何時もパンと肉料理の毎日には味噌汁などが恋しくてなりませんでした。そんな時、添乗員が「みなさんにインスタント味噌汁一袋渡します」と言って貰ったときの味噌汁の美味しかったこと忘れません。日本からのお酒も携行しておらず、日本からのお客さんに焼酎 500ml をペットボトルで戴きました。ワインよりも美味しかったですね。

朝食は全てバイキングで気楽にいただきました。

背広にネクタイの夕食時のフォーマルは 4 回あり、トランクでの背広運搬には一苦労でした。妻はドレスで参加したが、4 人ほどの女性は和服での参加で人目を引いていたと思いました。

14階にはプールがありましたがさすがこの年になったので控えました。しかし、外人は老若男女を問わずプールで楽しんでいました。地中海クルーズなので気温は温暖で日本の5月頃の気候だそうです。

天候は雨に見舞われたのは1日だけで、さわやかな気候の中での旅行でした。

スペイン サグラダ・ファミリア（聖家族教会）

最初の寄港地は地中海に面したローマ北部の60万都市でコロンブスゆかりの地ジェノバです。コロンブスは15世紀に活躍した探検家で青年時代を過ごしたのがジェノバです。その家は道路に面し、今も保存されています。

4日目はスペイン・バルセロナのサグラダ・ファミリアです。

1882年に着工、133年経過した2015年になってもまだ工事中。完成は着工後144年後の2026年だとか。工事中とはいえ、参拝者や見物に訪れる観光客は270万人を超えたそうです。しかもローマ法王が2010年に訪れ、6500人が参拝されたそうです。私らも教会の中に入りました。今でも参拝者がおられ、人でごった返しています。



聖家族教会



バチカン



船内でのフォーマル

カサブランカ

6日目はモロッコのカサブランカです。

映画ではカサブランカを3回は観ました。1942年の第2次世界大戦中に製作された映画でラブロマンスのストーリーではあるが反枢軸国（反ドイツ、イタリア）のシーンが随所に出てくる映画に魅かれた。ヒロインのイングリッド・バーグマンの清楚な容貌には感嘆符付きだった。その映画を思い出しながらのカサブランカの旅でした。映画のシーンは、ほとんどはアメリカでセット撮影したそうですが、映画に出てくるレストランは、当時そのままに保存されている。

バチカン

カトリック教会と東方典礼カトリック教会の「総本山」バチカンを訪ねた。イタリア訪問は今回の旅行が初めてである。数回ローマを訪れている同期の井口勝治さんが「ローマ

はスゴイ。観たいところ、行きたいところはまだまだ沢山ある」と口癖のように言っていたが、実際訪ねて私も、つくづくそう思いました。行くところ行くところ世界遺産で、まるで世界遺産の中に町があるようでした。

バチカンの中は人、人の洪水でした。いたるところに著名な彫刻家の彫り物や石像があり圧巻でした。

ここに記述した以外にも沢山の見どころがありましたが、キリがありませんのでこれくらいにしておきます。

今回、クルーズ旅行での私の思い

クルーズでは船内で夜のショーが毎日あり、約 1,000 名近く入るホールでの鑑賞が心を和ませました。イタリアなどの歌や踊り、バチャダ ダンスのレッスン、仮装してのカーニバルには船長もユーモラスな衣装で会場を沸かせました。また、ファッションショーなども行われ乗客をあの手、この手で退屈させません。

ビンゴゲームにはビックリしました。3 枚のカードの穴を全て開けなければならず、こんなの誰かビンゴが出るのかなと思いきや、数人が出ました。私はあと少しでガッカリです。ロミオとジュリエットの映画もあったのですが、22 ; 45 分からの上映で、さすがにこれは寝不足になると思いキャンセルでした。

プールでの水泳は外人には人気がありましたね。食堂の隣なので、プールの横を通らなければ食堂にいけないので、絶えず見ましたが、年齢に関係なく、夫婦で、親子で、友人同士で、夫々楽しんでいました。さすがに日本人はいませんでした。季節がら気分や、又、年齢が合わないのかも。私は季節が違うのでと、当然泳ぎませんでした。

他の国の文化、芸術で感じたこと

外国の人は騒ぐときはユーモラスに騒ぎ、年齢に関係なく楽しんでいるように思いました。

1500 年、1600 年頃の建造物等は、歴史的と言えるのかという感じです。また、紀元前からの建造物や美術品も多く、まだ凜としてそこから市民を見つめている姿には感動です。

しかし食事はやはり日本人とヨーロッパでは味付けが根本的に違い、旅行では 5 ㎏以上は痩せました。食事はやはり和食が最高ですね。旅行中はワインもウイスキーもビールも余り口にせずでしたので、関空に着くなり、寿司店に駆け込み、刺身とビールと日本酒で妻と無事での帰国に乾杯。やはり最高ですね、和食は。

最後に

最後の飛行機乗り継ぎ地、イスタンブールが雪でローマ発が約 10 時間遅れの飛行便でした。これには弱りました。快適なクルーズ旅行から、最後に飛行場で待たされたのは、本当、しんどかったですね。いきなりの降雪で飛行場では 30 時間以上、待たされたことです。飛行機も人間も自然には小さいものです。1 日遅れの帰国になりました。妻とは「テロでのトラブルではないので、これで良しとしよう」と妻と話しての旅行でした。

以上